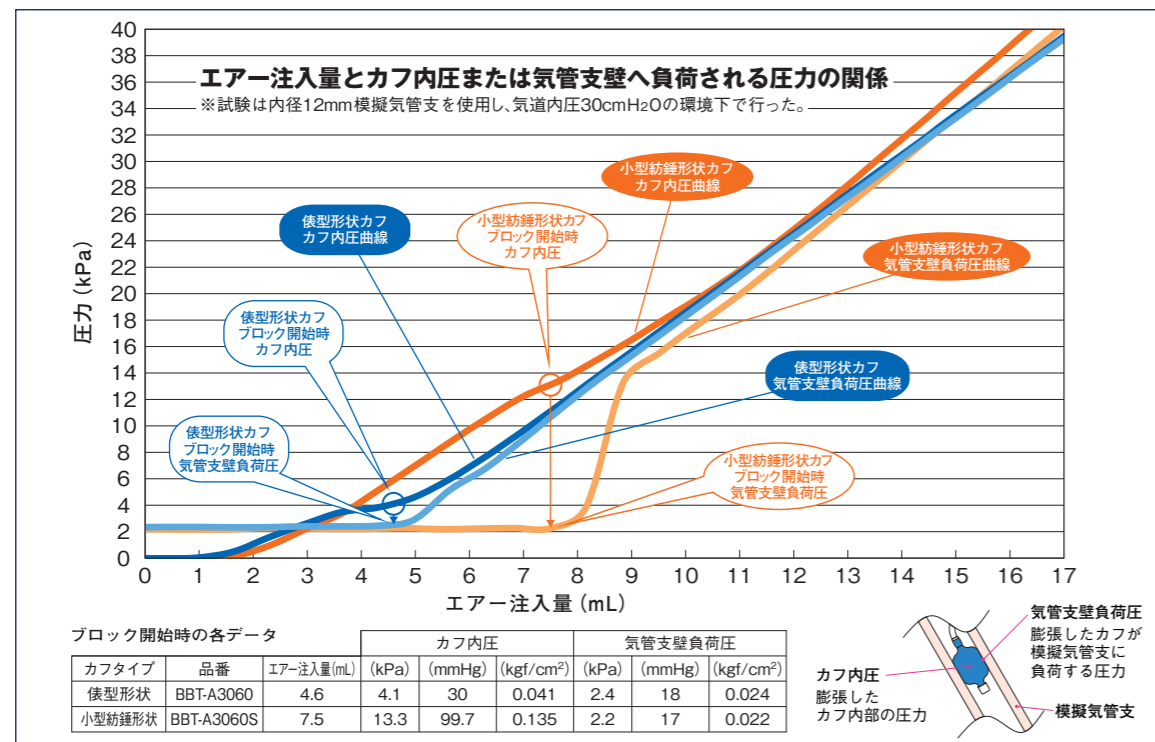


クーデック® 気管支ブロッカーチューブ ●仕様

タイプ	品番	気管支ブロッカーチューブ	オートインフレーター	ジョイントコネクタ	カフ形状	入数	希望小売価格(税別)
タイプA	BBT-A3060	外径3.0mm/長さ600mm	—	○	俵型形状	1セット	12,800円
タイプB	BBT-B3060	外径3.0mm/長さ600mm	○	○	俵型形状	1セット	12,800円
タイプA	BBT-A3060S	外径3.0mm/長さ600mm	—	○	小型紡錘形状	1セット	12,800円
タイプB	BBT-B3060S	外径3.0mm/長さ600mm	○	○	小型紡錘形状	1セット	12,800円

1セット/箱 滅菌済
 ●記載の希望小売価格には、消費税は含まれておりません。 ●仕様および外観は、改良のため予告なく変更されることがあります。あらかじめご了承ください。



クーデック 気管支ブロッカーチューブ
 医療機器承認番号：21400BZZ00128000 機械器具51 医療用喉管及び体液誘導管
 管理医療機器 換気用気管支閉塞カテーテル (JMDNコード：70258000)

【禁忌・禁止】 ●再使用禁止。 ●再滅菌禁止。 ●カフへの空気以外の注入禁止。

使用目的、効能又は効果
 本製品は、医家向けの呼吸器用チューブで、滅菌済みディスポーザブル製品である。肺癌、縦隔腫瘍、食道癌、胸部大動脈瘤等の開胸を必要とする手術の際に、気管内に経口、経鼻又は気管切開挿管される「気管内チューブ」又は「気管切開チューブ」と接続し分離肺換気を行う。

品目仕様等
 リザーバカフは、10mLの空気を注入したとき破断しない。

使用上の注意

1. 本製品を使用する前には、必ず表示事項及び取扱説明書を熟読し、その内容を熟知すること。
2. 本製品を使用目的以外の用途には使用しないこと。
3. リザーバカフは、使用前にシリンジを用いて空気を注入し、空気漏れ、片膨れ等の膨張状態に異常が認められる場合は使用しないこと。
4. 本製品の先端部やマークには潤滑剤を塗布しないこと [チューブの内径を塞いだり、マークが消失する恐れがある]。
5. リザーバカフに傷が生じる恐れがあるため、鉗子等で挟まないこと。
6. リザーバカフの空気注入量は、医師の臨床上的により決定すること。ただし、規定以上の量を入れるとリザーバカフが破損する恐れがあるので注意すること。
7. リザーバカフの膨張後は、クリアバルブ(インフレーターバルーン用)よりシリンジを取り外すこと。
8. リザーバカフの膨張状態を常に確認すること [リザーバカフ壁を通じた亜酸化窒素混合ガス、酸素、及び空気の拡散によりリザーバカフ容積とリザーバカフ圧が上下することがある]。
9. 抜管前および挿管位置を調整する場合は、リザーバカフから空気を完全に (パイロットバルーンが収縮状態になるまで) 抜くこと [リザーバカフが損傷する恐れがある]。
10. ブロッカーチューブのマークは、挿管深度の単なる目安であるので、実際の挿管深度は医師の臨床上の判断により決定すること。
11. ジョイントコネクタの気管内チューブコネクタは気管内チューブと、ベンチレーションポートは麻酔回路等と、確実に接続されていることを確認すること。
12. ブロッカーチューブの挿管位置は、聴診、気管支ファイバー、X線透視等により定期的に確認すること。
13. 患者の体位を変えた (体位が変化した) 場合は、本製品の挿管位置を必ず確認すること。
14. 本製品は無理に引張ったり、穴を空ける等の追加加工はしないこと。
15. 包装が破損しているもの、その他汚染されている疑いのあるものは使用しないこと。
16. 破損した製品は使用しないこと [粘膜を損傷する恐れがある]。
17. 手袋に精通した術者が使用すること。
18. ブロッカーチューブを挿管する時は、気管及び気管支損傷等に十分注意し、必ず気管支ファイバースコープ観察下で行うこと。
19. 抵抗を感じた場合は、ブロッカーチューブを進めないこと。
20. 本製品の近くでは、レーザー機器や電気手術器を使用しないこと。

21. 気管支をブロックしている時、換気が急に困難になった場合はリザーバカフを直ちに収縮させ、患者の状態を確認し適切に処置を行うこと。
22. 使用中は患者に異常のないことを常に監視し、本製品のものに判断される患者の異常を認めた場合には、直ちに患者の安全を図る処置を講じ、患者の安全を確認すること。
23. シリコン系潤滑剤を使用しないこと [リザーバカフが劣化する恐れがある]。
24. リドカイン局所エアゾールを使用しないこと [マークが消失する恐れがある]。
25. 本製品の使用中はハルスオキシメータによる持続的酸素飽和度の測定、気道内圧変化測定、呼気炭酸ガス測定等を用い常に患者の状態をモニターすること。
26. 右主気管支をブロックする場合、右上葉を閉塞することがあるので注意すること。
27. リザーバカフを収縮状態にしても、気管内チューブ内に留置すると気道抵抗の原因となるので注意すること。
28. ジョイントコネクタからブロッカーチューブのみを引き抜かないこと [リザーバカフ周辺部が破損し脱落する恐れがある]。
29. 先端保護チューブやリザーバカフが破損、脱落する恐れがあるので、無理な力を加えないこと。
30. 閉塞側の換気を行う際には、リザーバカフの脱気を十分に行うこと。
31. オゾンが発生する雰囲気中で本製品を使用しないこと。
32. 気管内チューブ内に気管支鏡等を挿入することにより、チューブの内径が狭くなることがあるので注意すること。
33. 使用後は院内の「廃棄物処理規定」に従って処理すること。

詳細は添付文書をご参照ください。禁忌・禁止を含む使用上の注意の改訂に十分ご留意ください。

LO08マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔(2時間まで)

1. 人工心肺を用い低温で行う心臓手術、区分番号K552-2に掲げる冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの)であって低温で行うものが行われる場合又は分離肺換気及び高頻度換気法が併施される麻酔の場合
 - イ. 別に厚生労働大臣が定める麻酔が困難な患者に行う場合 24,900点
 - ロ. イ以外の場合 18,300点
2. 座位における脳脊髄手術、人工心肺を用いる心臓手術(低温で行うものを除く。)若しくは区分番号K552-2に掲げる冠動脈、大動脈バイパス移植術(人工心肺を使用しないもの)(低温で行うものを除く。)が行われる場合又は低血圧麻酔、低体温麻酔、分離肺換気による麻酔若しくは高頻度換気法による麻酔の場合(1に掲げる場合を除く。)
 - イ. 別に厚生労働大臣が定める麻酔が困難な患者に行う場合 16,600点
 - ロ. イ以外の場合 12,200点

平成22年4月1日の診療報酬改定より

製造販売業者

大研医器株式会社
 〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2-6-2

本社 〒594-1157 大阪府和泉市あゆみ野2-6-2 TEL 0725-30-3150
 (製品に関するお問い合わせは、下記営業窓口にご連絡ください)
 札幌支店 〒001-0010 札幌市北区北十条西4-1-19 楠本第10ビル7F TEL 011-708-3060
 仙台支店 〒980-0011 仙台市青葉区上杉2-3-7 K2小田急ビル6F TEL 022-214-4561
 さいたま支店 〒330-0854 さいたま市大宮区桜木町1-11-1 YK-10ビル7F TEL 048-650-9925
 東京支店 〒101-0031 東京都千代田区東神田2-4-5 東神田堀商ビル7F TEL 03-5835-5011
 横浜支店 〒220-0004 横浜西区北幸2-9-40 銀洋ビル5F TEL 045-872-0700
 名古屋支店 〒460-0003 名古屋市中区錦1-19-24 名古屋第一ビル7F TEL 052-559-1286
 金沢営業所 〒920-8203 金沢市鞍月5-181 AUBE 4F TEL 076-238-9950
 大阪支店 〒540-0036 大阪府中央区船越町1-6-6 レナ天満橋ビル7F TEL 06-6943-1161
 広島支店 〒732-0827 広島市南区福荷町5-18 三共福荷町ビル2F TEL 082-568-2377
 福岡支店 〒812-0013 福岡市博多区博多駅東3-10-15 博多駅東アトルビル5F TEL 092-481-1751

COOPDECHの製品情報はホームページでご覧いただけます → <http://www.daiken-iki.co.jp/>

代理店

この印刷物は、環境にやさしい「大豆油インク」を使用しています。

2019.8
 カタログ記載内容2019年8月現在(1908B)



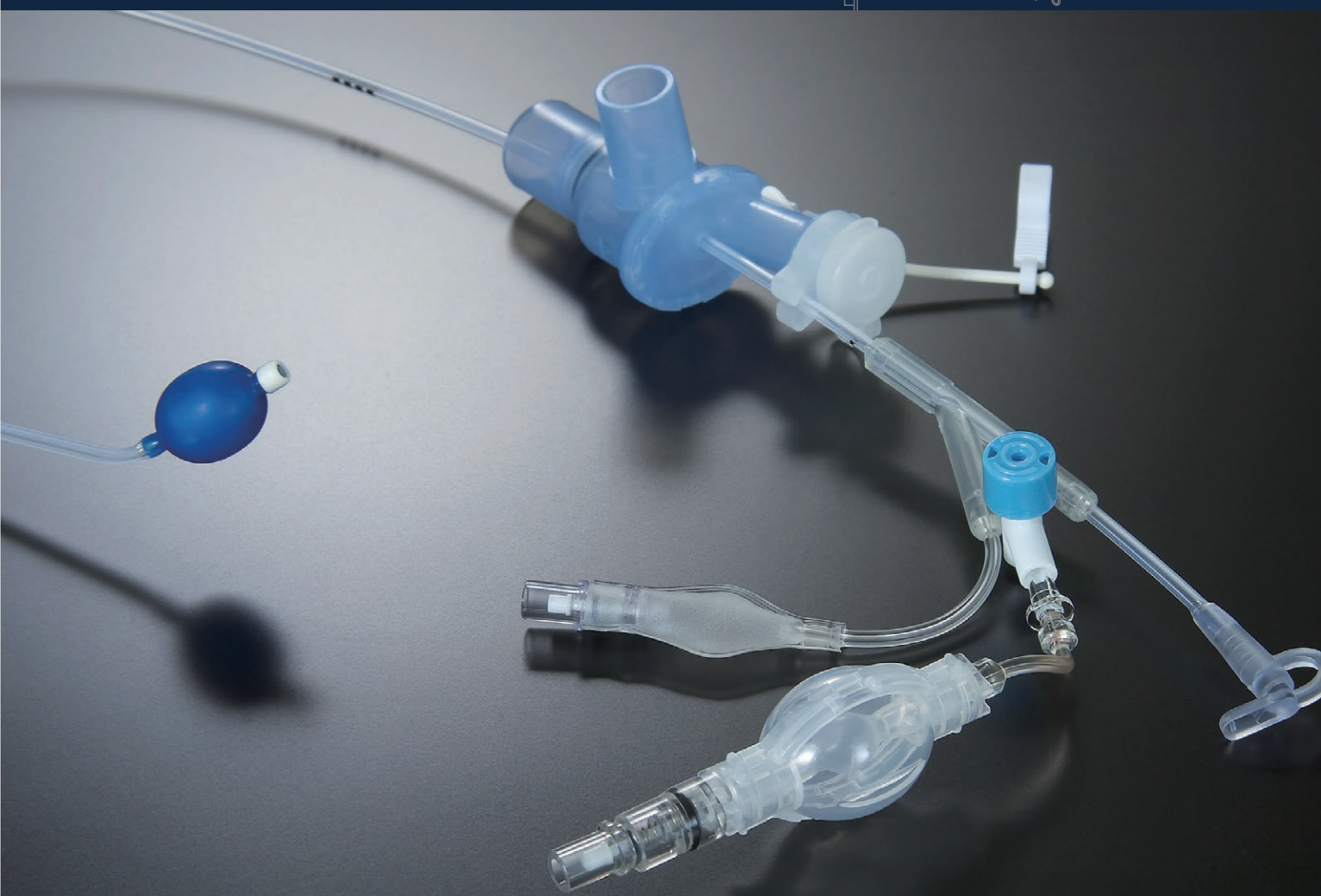
クーデック® 気管支ブロッカーチューブ

- クーデック気管支ブロッカーチューブは分離肺換気を目的とし、気道確保のために挿管された各種チューブと組み合わせて使用します。
- 分離肺換気終了後、引き続き気管内挿管による人工呼吸が必要な時も、気管支ブロッカーチューブを抜管するだけです。気管内チューブを交換する必要はありません。
- 独自のオートインフレーターは、片手操作でカフの膨張が行えます。気管支ファイバースコープとの同時操作が可能です。
- ジョイントコネクタは、換気を行いながら気管支ブロッカーチューブおよび気管支ファイバースコープを操作できます。
- シングルルーメンチューブと組み合わせて使用するため、各種サイズをストックする必要がありません。
- スパイラルタイプを含む各種気管チューブや気管切開チューブ、ラリゲルマスクに接続可能です。

管理医療機器
 一般的名称：換気用気管支閉塞カテーテル
 医療機器承認番号：21400BZZ00128000
 販売名：クーデック気管支ブロッカーチューブ

希望小売価格 ●タイプA 12,800円(税別)
 ●タイプB 12,800円(税別)

大研医器株式会社



気管支組織へのダメージを軽減する低圧カフの採用、 抜管後の気管チューブ再挿管が不要、 換気しながらの操作、 これがクーデックの考えた低侵襲分離肺換気です。

Valve (開閉弁)

インフレートバルーン内に蓄えられた空気をカフに導入する際に使用します。ボタンを押すとバルブが開き、手を離すとバルブが閉じるワンタッチ構造です。
※タイプB (オートインフレーター付) に装備。

Inflate Balloon (インフレートバルーン)

あらかじめインフレートバルーンに空気を注入しておくことにより、ファイバースコープを使用しながら、片手でのカフ膨張操作が可能です。
※タイプB (オートインフレーター付) に装備。

Bronchoscopy Port (ファイバーポート)

ファイバースコープ挿入口です。ファイバースコープと気管支ブロッカーチューブの角度を最適化する形状とし、良好な操作性を実現しました。また、蓋付きのファイバー用パッキンが装備され、ファイバースコープの挿入有無に関わらず、気密を保った操作が可能です。

Pilot Balloon (パイロットバルーン)

パイロットバルーンの膨らみ具合で、カフの膨らみ具合が手元でモニターできます。

Blocker Port (ブロッカーポート)

気管支ブロッカーチューブがジョイントコネクタに対し、垂直に挿入されているので、回転によるカフの方向転換が容易です。またパッキンも垂直に内蔵していますので、気密を保ったままブロッカーチューブの上下移動が可能です。

Blocker Tube Cramp (ブロッカークランプ)

気管支ブロッカーチューブをジョイントコネクタに固定し、手術中の気管支ブロッカーチューブのスレを抑制します。

Ventilation Port (ベンチレーションポート)

麻酔回路、または呼吸回路に接続可能です。日本工業規格 (T7201-2-1) 15mm 円錐コネクタに準拠した形状・寸法になっています。

Suction Port (吸引ポート)

虚脱肺への酸素の投与や脱気、分泌物の吸引が可能です。

Cuff (カフ)

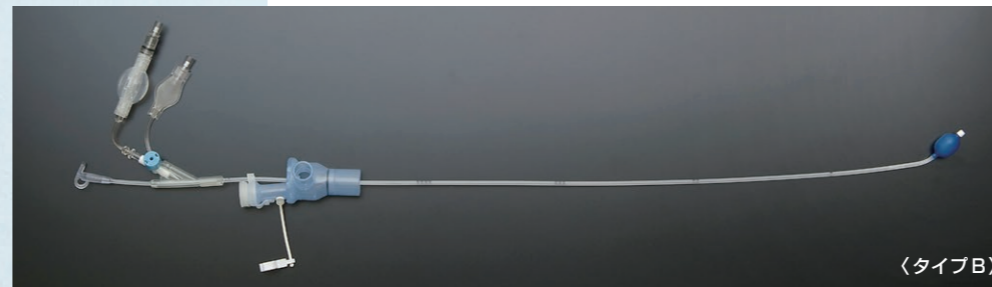
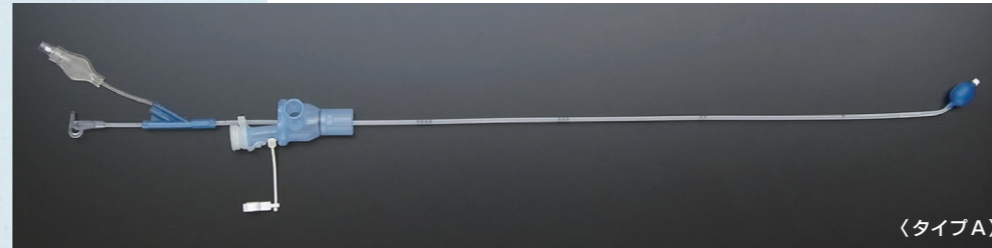
薄い青色にすることで視認性を高めたカフです。イソプレンゴム製のソフトな材質により、低圧で確実なブロックが可能となり、気管支粘膜に対する低侵襲性を実現しました。2種類の形状があります。

Endotracheal Tube Connector (気管チューブコネクタ)

スパイラルタイプを含む各種気管チューブや気管切開チューブ、ラリンジアルマスクに接続可能です。日本工業規格 (T7201-2-1) 15mm 円錐コネクタに準拠した形状・寸法になっています。

Endobronchial Blocker Tube 気管支ブロッカーチューブ

気管支ブロッカーチューブは、分離肺換気を目的とし、気道確保のために挿管された各種チューブと組み合わせて使用します。目的の気管支に誘導しやすいよう、先端部に角度をつけました。吸引ポートからは虚脱肺への酸素の投与や脱気、分泌物の吸引が可能です。



Joint Connector ジョイントコネクタ

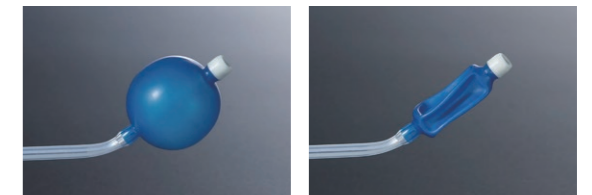
ジョイントコネクタは、気管支ブロッカーチューブを各種気管内チューブや麻酔回路に接続して組み合わせます。また、ファイバーポートもありますので、麻酔回路を取り外すことなく気管支ファイバースコープを使用できます。



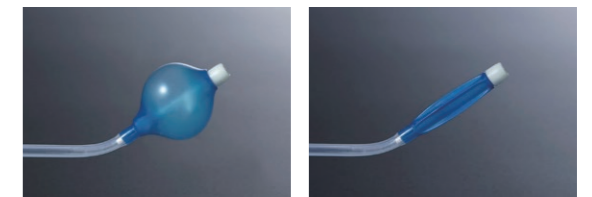
Cuff カフ

ソフトなイソプレンゴム製カフを採用しました。低圧でブロックできますので、気管支粘膜に対し低侵襲です。またカフの視認性を高めるため、薄い青色にしました。低侵襲性を追及した俵型形状と、カフ脱気時の気道抵抗を低減し、視認性を更に高めた小型紡錘形状の2種類があります。

〈俵型形状カフ〉



〈小型紡錘形状カフ〉



Auto Inflator オートインフレーター

オートインフレーター (タイプB) は、あらかじめインフレートバルーンに空気を充填しておくことで、片手操作が可能になりました。ワンボタンでカフを膨張させることができるため、気管支ファイバーを操作しながら介助者なしに操作ができます。また、シリンジで直接空気を注入しないため、高圧や過剰注入による気管支組織へのダメージが最小限に抑えられます。

特許取得済

